

令和2(2020)年「正覚寺報」9月号

お知らせ

今やコロナは、東京を初め全国に弘まってきました。それ故、必要以上に恐れたのでは、文化的活動が悪影響を受けてしまいます。

これからは「コロナとは正しく恐れてその存在を顧みることが大切になって参ります。

マスクは各人で持参して戴きます。

正覚寺では総代様のご配慮で本堂に消毒薬を備え付けて戴きました。

皆様には、それぞれにお気を付けて戴き、お聴聞にお運び下さるようご案内申し上げます。

記

仏教壮年会お聴聞の会(9月6日(日)20時)

仏教婦人会例会 (9月16日、午前11時滋

賀組佛婦実践運動研修会に合同します)。

秋の彼岸会(9月19日(土)14時、19時半)

お育てに与ってきたお法(みのり)

近江門徒がお育てに与ってきた少なからぬお法りを思い起こしてひとつひとつ記憶に留めさせて戴きましょう。

させて戴く文化

「させて戴く」文化は、歴史的に近江門徒の皆様が育て上げられた生活の上の文化です。

お念仏は、如来様から頂戴した如来様の行です。称えるといっても「称えさせて戴く「如来様の行」ということができます」。ですから、お念仏は「させて戴くお念仏」だったのです。

お念仏は、如来様がお与え下さっている如来様の行です。「本願の行」といえば、如来様のお手許で成就して下さった「如来様の行」だったのです。

これを「大行釈」で、「大行とは、すなはち、無碍光(むげこう)如来の御名(みな)を称するなり」と仰せ下さったのでした。

それを更に「六字釈」は、「発願回向(ほつがんえこう)釈」で、「如来すでに発願して衆生の行を回施したまふの心なり」と仰せ下さったのでした。「心なり」は、「こころなり」と読むのではなく、「しんなり」と読む方がよいと聞かされます。「仏心」だったからです。

『往観偈』のすばらしさ

其佛本願力(ごぶつほんがんにき)

聞名欲往生(もんみょうよくおうじょう)

皆悉到彼国(かいしつとうひこく)

自致不退転(じちふたいてん)

お葬式の都度、導師は破地獄の御文を認めます。通夜に駆けつけた導師は棺を明けて喪主と共に故人の胸の上に御文を捧げます。

四行の内、大事なのが「聞名欲往生」です。

「聞名」とは、十方恒沙の諸仏如来が無量寿仏の威神功德を讃嘆したまふ、讃嘆の名号をお聞かせに与ることを云います。

人間世界で讃嘆のお名号を初めてお聞かせ下さったのが歴史的にお釈迦様です。龍樹菩薩の五首に始まる七高僧のご和讃が是に続き、他力の念仏者のお念仏、その最後が最も懐かしい父母のお念仏の姿だったのです。

龍樹讃の五首とは「ススメテ念仏セシメタリ」

「ヒトヘニ念仏ススメケル」

「ツネニ弥陀ヲ称スベシ」

「弥陀ノ名号称スベシ」

「念仏三昧行ジゾ……」だったのです。合掌。